

# 設置前に配管の調査を

リフォームの要望が最も多い浴室とトイレ。「設備の交換やトイレの張り替えで、簡単にリフォームできる」と思いがちだが、配管や取り入れる設備のサイズなど、注意すべき点が多い。TOTO水栓工務北谷店の川上優氏にアドバイスしてもらった。

浴室の種類には、タイル張りで行きな大きさをデザインに合わせる「在来工法」、設備や内装がセットされた「ユニットバス（メーカーによってはシステムバスともいう）の2つがあります。特に後者は「手入れがしやすい」「水漏れの心配がほとんどない」「高齢者にとっては冬場の床冷えが少なく」といった利点があることから、近年需要が高まっています。また、乾燥機やエストシャワーなど充実した設備や、パネルの色など種類が多いのも魅力となっています。設置は、既存の浴室を解体した後、配管・電気工事、天井・床のパネル取り付けの順で行われます。

## 浴室 ユニットはサイズ合わせ重要



施工前

ユニットバスはサイズが決まっているため、柱や梁の出っ張りやサイズが合わない場合、収めるための工事が必要になる可能性もあります。また、既存と同じ位置・場所で開口が取れるかという点も見落とされがちです。いずれの場合も事前にリフォーム会社と相談することが大切です。工期は、在来工法ではタイルの張り替えや設備の設置などで10日以上掛かるのに対し、ユニットバスでは、2〜3日程度で済みます。あらかじめ工程表を確認し、浴室が使えない期間はどうか、対策を考えておきましょう。



施工後

バスタブのなかった在来工法の浴室をユニットバスに変更。ユニットバスは工期が短く、パネルのカラーなど種類も豊富なのが特徴。

施工後



施工前

タイル張りだったトイレも、フロアリングに、壁面もウォールレットに、それぞれ必要な、汚れや水に強い素材を使っているため、手入れも簡単です。



トイレは、水洗いできるトイレ張り「湿式工法」が主流ですが、清掃しやすく、段差も解消できるフロアリング乾式工法も人気が高まっています。便器については、温水洗浄便座（一体型便座ウォッシュレットなど）に変更する場合、コンセントの位置や電気の容量に注意が必要。現場の状況によっては、使用できる電線量が足りず、分電盤の工事も必要になる可能性があるからです。また、排水位置を安んじて便器を交換する場合は、排水管の調整工事が必要になることも考慮しておきましょう。さらに、水道から直接配管するタンクレスの便器を設置する場合、新規の配管工事が必要になります。そのほか、大きめの便器を収納なごを取り付けた結果「狭くて、かえって使いづらくなった」ということが起きないよう

## トイレ 便器の種類、排水位置に注意

う、トイレ内はスペースをゆとり確保することも大切です。浴室にも言えることですが、工事前には、給排水管が老朽化していないか必ず調べましょう。在来工法の場合、表面がきれいであっても、長年、水分がコンクリート土間に浸透してきたことで、給排水管やコンクリートなど内部が傷んでいる場合があります。またスミーズに排水させるためには、排水管の傾斜を確保する必要があります。その際、床下に使う空間は最低でも20cm以上は必要。マンションなどでは、床下を十分確保できないケースもあるため、事前の調査・対策が必要になります。そのほか、手すりを設置しない場合でも、あらかじめ下地材を入れておき、必要時に備えるようにしておくことをお薦めします。